

2023年(令和5年)

6月19日 月曜日

旧暦5月2日 赤口 三碧

福島民友

9

ライフ

7版

(第三種郵便物認可)

福島

島



■ 耳を大切にしましょう ①



小川 洋医師

ライフ

月曜掲載

年齢を重ねると高い周波数の音から聴力が低下することが知られています。通常の会話で不自由しないと思っても電子体温計の「ピピッ」とした音が聞こえない場合には高音の周波数が聞こえない状態になっています。高音域の周波数帯が低下していると、聞き間違いをしてしまう危険性が高くなります。さらに聴力低下が進行すると、言葉の聞き取りが悪くなってきます。音はわかるけれど何を言っているかわからない状態になってしまいます。

耳は大きな音刺激を受けると聴力低下の危険性が高くなります。コンサートなどで大音量の音楽を長時間聴いた後や耳元で強大音を

大きな音で聴力低下も

聞いた後で、耳鳴りがしたり、聞こえがおかしいと感じたりするのは強大音によって聞こえのシステムが障害を受けたからです。このような病態を「音響外傷」といいます。強大音の暴露は聴力低下の高いリスクとなります。短時間で回復してくれればよいのですが、聴力低下が持続し、改善しないことがあります。また、大きな音と感じていなくとも音刺激を長時間受けると聴力低下の危険性が高いということがわかっています。ヘッドホン難聴、イヤホン難聴として近年注目されているものです。

さらに中耳炎の影響があります。中耳炎の反復は聴力低下のリスクを高めるこ

とになります。他にもいろいろな聴力低下のリスクがありますがリスクが重なることで同じように年齢を重ねても聴力が保たれている人、聴力低下をきたしてしまう人が出てきてしまいます。耳の神経が障害を受けて聴力低下をきたした場合、特定の病態を除くと改善は極めて困難です。いかに聴力低下を起こさないように聴力低下のリスクを避けることが大切になります。(県医師会員、会津若松市、会津医療センター耳鼻咽喉科学講座教授)

＝次回掲載7月3日

協力・県医師会

